

令和 7 年度 仙台城跡整備事業の予定について

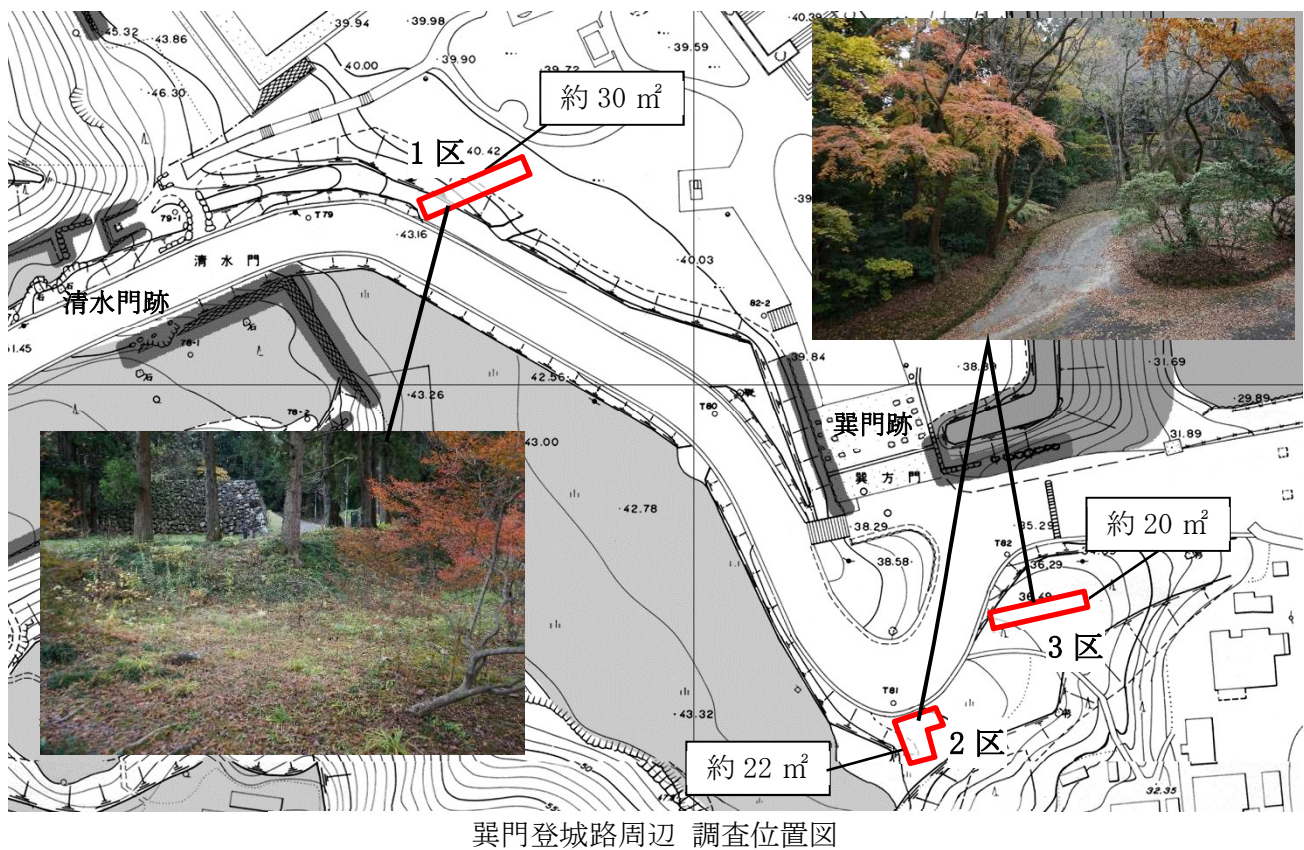
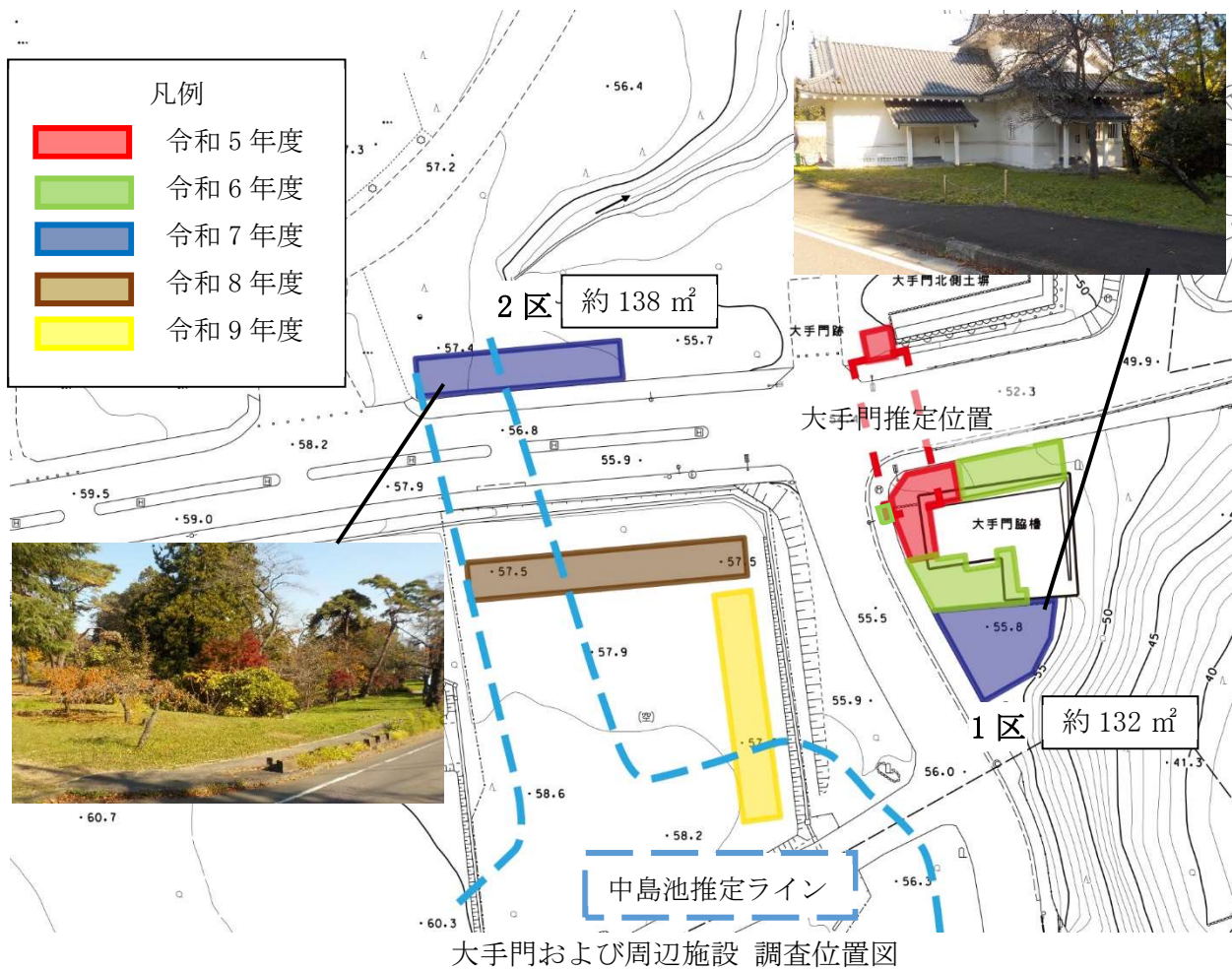
1. 調査

(1) 発掘調査 大手門跡周辺の発掘調査に加え、巽門登城路周辺の調査を再開する。

発掘調査 大手門跡および周辺発掘調査（第 3 次）、巽門登城路跡発掘調査（第 6 次）	
目的	『史跡仙台城跡整備基本計画』（以下、「整備基本計画」）の事業計画として実施する。 大手門および周辺発掘調査は、令和 5・6 年度の成果を踏まえて、大手門周辺の遺構の残存状況を確認するため継続して遺構確認調査を実施する。 巽門登城路跡調査は、災害復旧事業のため延期していた調査を再開し、令和 7 年度は巽門周辺および巽門から清水門にいたる登城路の位置や関連遺構の残存状況を確認するため、遺構確認調査を実施する。
予定期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
対象面積 ・ 調査内容	合計：342 m² 大手門および周辺発掘調査（1 区：132 m²、2 区：138 m²） 1 区：大手門脇櫓（再建）の南側に位置する。令和 6 年度検出された石組側溝の延長を確認し、併せて大手門・大手門脇櫓周辺の関連施設の有無と残存状況を確認する。また、大手門脇櫓石垣の調査も行い、石垣の修復履歴を確認する。 2 区：大手門跡の西側に位置する。中島池から延びる水路の推定ライン上に位置し、大手門周辺の関連施設の残存状況を確認する。 巽門登城路跡発掘調査（1 区：30 m²、2 区：22 m²、3 区：20 m²） 1 区：仙台市博物館南側に位置する。東丸から清水門へ至る登城路上に位置し、巽門登城路の位置と関連遺構の残存状況を確認する。 2 区：巽門跡南側に位置する。巽門西側石垣の延長線上に位置し、石垣の広がりや巽門前面の枳形を確認する。 3 区：巽門跡南東側に位置する。巽門前面の枳形の南東部分と想定され、枳形の形状と巽門前面の遺構の残存状況を確認する。

【スケジュール】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
準備												
調査												
報告書												



(2) 石垣測量調査

カルテ作成に伴う石垣測量調査は、2019 年（令和元年）～2032 年（令和 14 年）までの計画で実施しており、途中震災もあったが、中断することなく順調に実施してきた。

令和 6 年度時点では、当初の計画よりも早く進んでいる状況である。要因としては令和 3・4 年の福島県沖地震に伴う災害復旧業務の中で測量した場所や、補助事業の執行状況により前倒しで測量を実施した場所があるためである。

これまでは、比較的足場のよい場所の石垣の測量調査が続いていたが、今後は広瀬川護岸石垣（橋のたもとの場所）など、測量が困難な場所もあり、実現の可能性の検討を行うとともに、人件費の高騰を踏まえた事業費の見直しが必要である。

そのため次年度は調査を行わず、令和 8 年度以降の事業計画の再検討を行うこととする。

2. 修景

(1) 生態系調査

史跡仙台城跡整備基本計画でゾーン分けをした箇所のうち、植生修景等の整備を実施するエリアにおいて調査する。

生息等が確認される種の把握や、整備に伴う生態系への影響について検討することを目的とする。

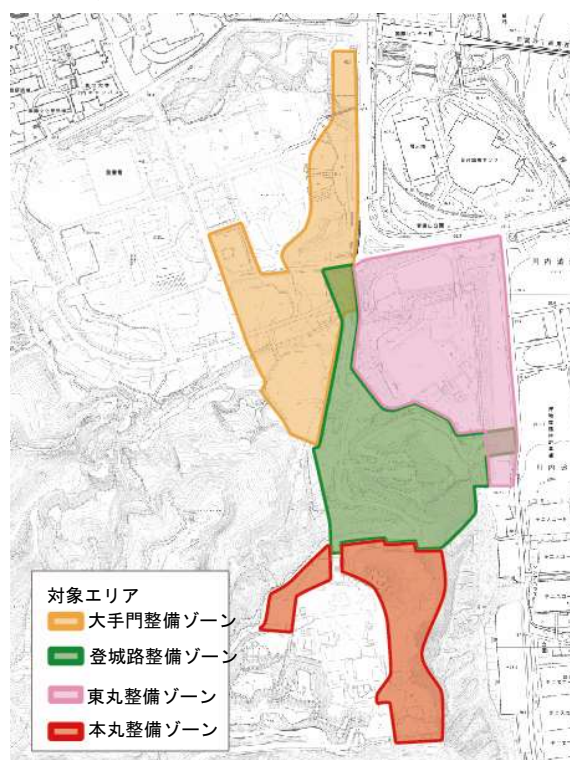
対象は、哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・昆虫類とし、年間を通して実施。

調査内容は、動態観測やトラップ調査等を実施。

また、文献調査も同時に実施し、過去の調査成果との比較検討等も実施予定。

調査成果を基に、仙台城周辺に生息域をもつ動物に考慮しながら仙台城全体の整備を進めていく。

【対象範囲】



【スケジュール】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入札	★											
準備												
調査												

(2) 植生修景

令和 7 年度は整備第 2 期に実施を予定している「本丸整備ゾーン」、「大手門整備ゾーン」、「登城路整備ゾーン」について、右図で着色した箇所の具体的な事業内容の検討を行う。

【本丸整備ゾーン】（赤色部分）

東側周縁の整備を実施し、石垣や本丸の周縁が分かるよう整備を進める。関係各課と調整のうえ、崖面の際にある危険木や枯損木を優先に実施する。城郭の施設としての理解、関心が深まることが期待される。

【大手門整備ゾーン】

人の往来があることを考慮し、危険木や枯損木の伐採を中心に整備する。

【登城路整備ゾーン】

人の往来があることを考慮し、危険木や枯損木の伐採を中心に整備する。また整備により市街地から見上げた際に現在見える石垣の範囲がさらに広がる事が期待でき、仙台城跡の存在を周知し、理解関心が深まることが期待される。

【対象範囲】



- 本丸整備ゾーン
- 大手門整備ゾーン
- 東丸（三の丸）整備ゾーン
- 登城路整備ゾーン

(3) 維持管理

(i) 過年度整備箇所の維持管理

第 1 期植生修景整備箇所の維持管理を行う。

(ii) 危険木伐採

史跡の保護・管理の観点から、登城路沿いや博物館周辺等、人や車両の行き来がある箇所、また遺構の保存に影響を及ぼす危険性のある樹木を対象に伐採を行う（枯損木含む）。これらの伐採は、関係各課との調整を行いながら実施する。

3. 整備

(1) 東丸（三の丸）土塁園路実施設計 ※令和 6 年度より継続

本委員会や関係機関協議での意見を参考に実施設計を行う。

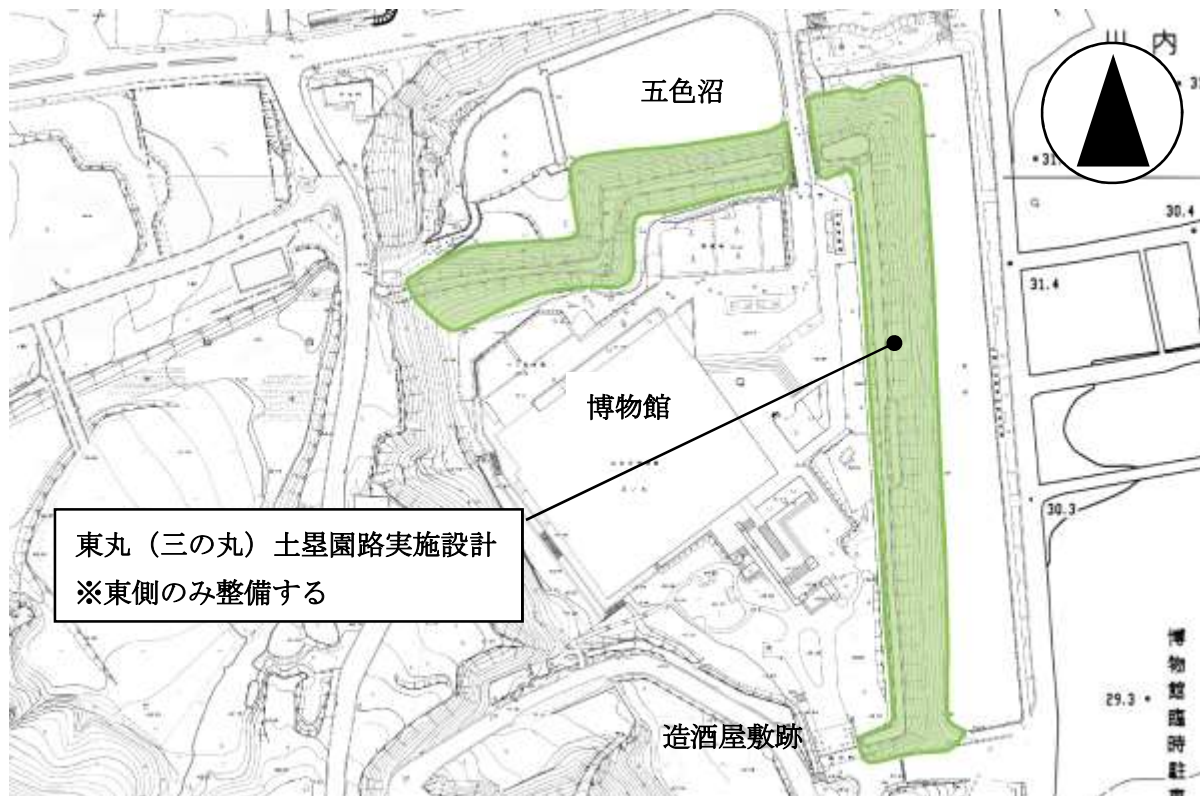
なお、施工は令和 8 年度を予定しており、工事時期の調整等に向けた関係機関協議も進める。また、管理方法や点検頻度についても検討する。

【スケジュール】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
設計												
協議等												

協議：関係部署、文化庁

【対象箇所】



（２）異櫓周辺整備（基本設計）

周辺の測量を実施し地形の把握を行い、基本設計にて異櫓周辺の整備について検討する。整備内容は、異櫓跡が崖地に隣接しており近づくことが出来ないという課題や、遺構の大半が失われていること、現況の公園施設問題などもふまえたうえで、主に本丸地区の回遊性の向上や、遺構の理解を目的とし、異櫓周辺の便益施設の設置や安全性を考慮した遺構表示の方法を検討する。

【ゾーン区域】

当該地は整備基本計画内で本丸整備ゾーンに位置付けられている。

※本丸跡と、本丸跡から望める関連歴史資産との関係性について理解を深めるゾーン。主に遺構表示等の整備と眺望に関する整備を行う場所と位置付けている。

【異櫓の概要】

- ・現存する最古の絵図である「奥州仙台城絵図」に三階建て瓦葺きの隅櫓として表記され、正保3年（1646）の地震によって倒壊したとされる。
- ・平成14年に発掘調査が行われた。
- ・調査では異櫓とその北側に付属する付櫓の石垣を確認し、その規模と構造、残存状況を確認した。
- ・東半部は崖地の崩壊のために大半が欠失し、残存部分も東側に傾斜している。
- ・残存遺構を保存するため、櫓下の崖地を含めた崩落防止対策が行われている。

【対象箇所】



異櫓周辺（令和7年3月撮影）



土塁周辺（令和7年3月撮影）

【スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約等												
測量												
設計												
協議												